

名大STE研の地上観測の現状・将来展望と連携

Current status and prospect of STEL ground-based observations and collaboration

藤井 良一 [1]

Ryoichi Fujii[1]

[1] 名大・太陽研

[1] STEL, Nagoya Univ

名古屋大学太陽地球環境研究所 (STE 研) の地上・ネットワーク観測の現状と今後の基本的な方向性と国内・国際連携について概観する。STE 研は、地上観測を中心に、データ解析、シミュレーション・モデリングをも併せ用いて、太陽地球系全域の物理過程の解明を目指す全国共同利用研究所で、学界から拠点的作用を求められている。本中期計画 (2005 年度から 2009 年度) は、SCOSTEP が推進する CAUSES (太陽地球系の気候と天気) 計画を推進することを軸としている。具体的には、特別教育研究経費の支援を得て、太陽風イメージング装置、北海道 HF レーダー、熱圏・電離圏観測のための FPI や流星レーダーナトリウムライダー等の光学・レーダー装置、中間圏・成層圏の微量物質観測のためのミリ波分光計、等々の製作・設置と実証型ジオスペース環境モデリングシステム (GEMSIS) の開発等を実施してきている。これらの多くは、拠点観測としてユニークな意義と先端性を有すとともに、グローバルネットワークの中でも重要な役割・貢献を果たしている。今後の STE 研の方向性・戦略としても、拠点観測の更なる総合化とともに、拠点を中心とした探求する物理過程に応じた様々な空間時間スケールの観測網の設置、拠点の間の空白域をつなぐ観測網の設置も含めたグローバルなネットワークの構築を目指し、最先端の科学研究と国際的連携を計っていく計画である。その時に、現在稼働しているもの、将来計画されている、国内外の地上観測との連携は必須で、その為の大学間連携を進める努力 (本セッションの佐藤夏雄教授の発表参照) も開始されている。飛翔体 (れいめいや Themis, SWARM 等々) との連携も組織的・意図的に進めて行くことが重要で、STE 研の使命であると認識している。